

シラバス 2015

3 年生情報コース用



鹿児島県立財部高等学校

はじめに

校長 原口 和哉

本校は、地域・保護者の信頼と生徒の期待に応え、生徒一人一人の希望する進路が高いレベルで実現できるように、基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立をめざしています。具体的には、英語・数学における少人数での習熟度別授業、放課後の個別指導、各種検定試験、生徒による授業評価などを進めています。

今回「財部高校シラバス 2015」をお届けしますが、内容は各学年の学習内容・年間計画・学習の視点・学習の達成目標（到達度）・評価の観点や方法などについて記されています。年間授業計画（シラバス）発行の目的は、生徒の学習意欲を高め、真剣に授業に取り組む姿勢を形成することにあります。生徒が主体的に学習に取り組むことによって自身の将来をしっかりと設計することができるようになることを期待しているのです。

つまり、生涯学習の基礎を完成する財部高校の3年間で「いつ」「何を」「どういう目的で」「どのように」学ぶのかを示し、それを生徒の皆さんにしっかりと理解してもらって、学びの効果を上げたいというねらいで作ったのがこのシラバスです。

本校における年間授業計画（シラバス）は、当初学力向上をめざして組織的に計画的な授業を進めるための職員の手引書として平成15年度にスタートしましたが、生徒を取り巻く社会の変化に伴い平成17年度からは生徒にも配付し、教師と生徒の双方向での有効活用をめざしてきました。平成20年度からは保護者の皆さんにも配付してまいりました。一昨年度より、保護者の皆さんへはホームページにて閲覧していただき、積極的に年間授業計画（シラバス）を活用してもらうことによって、本校教育に一層の理解と協力をいただきたいと考えております。本校の授業内容そのものに関心を深めてもらうことにより、親子や保護者同士のコミュニケーションが深まり、家庭と学校が連携して「生徒の家庭学習の習慣化」を一層図ることができることを期待するからです。

まだまだ満足すべきものではないと思いますが、まぎれもなくここには本校教職員の真剣に授業に向かっていく姿勢が反映されています。今後とも随時、年間授業計画（シラバス）の改善を進めていく決意です。多くの関係者の方々に以上のことをご理解していただいた上で、忌憚のないご教示やご意見をいただけますことを願っております。

2015年度 シラバス 教科（国語）

教科の目標	人間は、「言葉」を通して形にしながら「考え」、「感じる」生き物です。ですから、自分自身の内面を作り上げ、あるいは、他者との交流を図り、社会的・文化的活動を楽しむ上で、「言葉についての学習」は最も重要です。とりわけ、母語としての日本語について、「表現する力」、「理解する力」、「伝え合う力」を高めることは、私たちがいきいきと生きることに直接つながります。3年間の学習を通して、これらの力を身につけていくことが教科の目標です。		
科目・履修学年・単位	国語表現	2・3 学年	4単位（情報）
	現代文 A	2学年	2単位（共通）
	古典 A	2学年	2単位（進学）
	現代文 B	3学年	4単位（共通）
	古典 B	3学年	3単位（進学）
科目の目標	国語表現	進んで表現し、また、他者の表現を受け止める態度を養い、「伝え合う力」を高め、言語感覚を磨いて社会生活を充実させる態度を養います。	
	現代文 A 現代文 B	明治時代以降の様々な文章を読む能力を高め、進んで読書する態度を養います。	
	古典 A 古典 B	古文や漢文を読み、ものの見方・考え方を広くし、古典に親しみ人生を豊かにする態度を養います。	

学習方法・留意点	1. 授業第一です。授業では次のことを心がけましょう。 ① 教科書，ノート，副教材などを忘れない。 ② 先生の指示（「読もう」「書こう」「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」）にまじめに取り組む。 ③ 板書をノートに書き写す。 2. 高校の授業の進め方は速く感じられます。家庭学習については次のことを心がけましょう。 ① 課題が出されたらそれに取り組み，期日厳守で提出する。 ② 現代文教材については，繰り返し読み，読めない字・書けない字・意味の分からない語を辞書で調べ，覚えることが予習です。また，授業のノートを読み直すことが復習です。 ③ 古文・漢文教材については，音読し，本文をノートに書き写し，意味のわからない語を辞書で調べ，覚えることが予習です。また，授業のノートを読み直すことが復習です。 ④ 学校で行われる小テスト・定期テスト・実力テスト・課題テスト等には出題範囲がありますから，そこを勉強してから受験してください。
評価方法	評価は，5つの評価の観点を踏まえ，具体的には定期試験に平常点（課題・ノート・小テスト・授業での取り組みの姿勢等）を加味して行います。各学期末に，それらを総合した評点が算出されます。その評点を更に3学期分で平均して，学年末には評価（5・4・3・2・1の絶対評価）が決定します。すなわち，「今は手を抜いて後で取り戻そう」というのは困難です。常日頃の学習を大切にしましょう。
単位認定と 追試験	高校では単位を取得することで進級や卒業ができます。各学期末に，このままでは単位認定が難しいと判断された場合，一度だけ追試験を行います。そこで合格するとその学期の欠点としての扱いは学年末に持ち越されることはありません。またそこで合格できない場合には，保護者にその旨を伝えるためにご来校いただくことになります。

評価のポイント 「評価の観点」との相関は次のとおりです。

教材	評価のポイント	評価の観点
評論	1 語句・語彙・漢字を理解し、身につけているか。	C D E
	2 論理の筋道を読み取ることができるか。	D E
	3 発問に対し、的確な言葉で自分の考えを口頭で発表できるか。また、人の発表を理解できるか。	A B E
	4 筆者の主張を的確に要約し、記述できるか	A C D
	5 筆者の主張を受けて思考を深化できるか。	A D
小説 随想 詩歌	1 語句・語彙・漢字を理解し、身につけているか。	C D E
	2 作品を味わい、感想を持つことができるか。	A B D
	3 人物の心情を理解し、そのことについて口頭で発表ができるか。	A B
	4 作品の主題についての考えを表現することができるか。	A C D E
	5 作品について深く考え、書評を書くことができるか。また、読書に親しむことができるか。	A C D E
古文	1 大きな声で滑らかにリズムカルに音読できるか。	B D E
	2 基礎的な古文単語・古典文法を理解し、身につけているか。	E
	3 的確に現代語訳できるか。	A C D E
	4 作品の展開に沿って内容を理解できるか。	A D E
	5 登場人物の人柄・心情を理解し、それを口頭で発表できるか。また、人の発表を理解できるか。	A B D
	6 作品の主題についての考えを表現することができるか。	A C D E
漢文	1 訓点にしたがって、大きな声で滑らかにリズムカルに音読できるか。	B D E
	2 語彙・漢文句法を理解し、身につけているか。	E
	3 的確に現代語訳できるか。	A C D E
	4 作品の展開に沿って内容を理解できるか。	A D E
	5 登場人物の人柄・心情を理解し、それを口頭で発表できるか。また、人の発表を理解できるか。	A B D
	6 作品の主題についての考えを表現することができるか。	A C D E
表現	1 自分の思いや考えを、効果的に口頭で表現できるか。	A B
	2 自分の思いや考えを、効果的に文章に書くことができるか。	A C
	3 情報を収集整理し、正確・簡潔に文章にまとめられるか。	A C D
	4 目的や場所に応じて、言葉遣いや文体を工夫できるか。	A C E
	5 語句・語彙の成り立ちや意味を理解し、身につけられるか。	A E

評価の観点

A	関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
B	話す・聞く	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。
C	書く	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて的確に文章を書く。
D	読む	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
E	知識・理解	表現と理解に役立てるための、音声・文法・語句・漢字等を理解し、知識を身につけている。

シラバス

教科・領域【 国 語 】

科目【 現 代 文 B 】

単位数	4 単位	学科・コース	普通科 全コース	学年	第 3 学年	区分	必須
-----	------	--------	----------	----	--------	----	----

年間の学習計画等

学期	単元	教材	学習内容
一学期	随想一	待つということ	・異文化とのふれあいについて書かれた文章を読んで、人々との関わりについて考えを深める。
	随想一	春	・人間と自然との関係について考えを深める。 ・文章の構成に着目して要旨を捉える。
	小説一	水かまきり	・登場人物の微妙な心の移り変わりを読み味わう。 ・小説における擬声語などの表現技法について理解を深める。
	小説一	神様捜索隊	・「神様捜索隊」のツアーにまつわるそれぞれの人物の様子から、人間どうしのつながりや幸せについて考える。
	評論一	コンコルドの誤り	・人間がその行動や思考において「進化」から外れた「誤り」を犯すことについて考える。
	評論一	創造する力	・人間とは何か、チンパンジーと比較することで見いだせる、人間の特徴を考える。
	実用の文章 1	手紙とメール	・手紙文とコンピューターや携帯電話でのメールの文章とを比較しながら、それぞれの文の形式や書き方を身につける。
二学期	詩	汚れつちまつた悲しみに…	・「悲しみ」とは何なのか、想像をめぐらせながら繰り返し音読し、詩を深く味わう。
	詩	耳の秋	・この詩でうたわれている情景を想像し、「耳の記憶」とは何かを考える。
	詩	未確認飛行物体	・空を飛ぶ薬缶や、砂漠に咲く花の様子を想像しながら読み、この詩のおもしろさを味わう。
	短歌	ただ一枚の絵はがき 短歌十二首	・繰り返し音読してリズムを味わい、短歌に描かれた情景や心情を豊かに想像する。
	随想二	前の駅出ました	・日常生活の中での「視点の切り替え」の重要性について考えを深める。
	随想二	ズルい言葉「してあげる」	・日常の言葉遣いに着目し、言葉の使い方について考えを深める。
	小説二	ナイン	・社会の変容に伴う人間関係の変化と、時代を超えた信頼や友情について考えを深める。
	小説二	芋ようかん	・揺れ動く人間模様をとらえて、「物作り」や「商売」が直面する問題について考えを深める。
三学期	評論二	持たないという豊かさ	・真の豊かさとは何であり、それを手に入れるためにはどうすればよいのか考える。
	評論二	「自己」について考えること	・「批判」「批評」「自己ルール」などの言葉を手がかりに、「自己」をどのように捉えるか、考えを深める。
	小説三	こころ	・「私」の心情・思考を読み取り、人間の心や孤独、通じ合うことなどについて考えを深める。
	実用の文章 2	本の広告を作ろう	・相手や目的に合った情報について考えを深める。

教科・領域【 国 語 】

科目【 国 語 表 現 】

単位数	2単位	学科・コース	普通科 情報コース	学年	第3学年	区分	必須
-----	-----	--------	-----------	----	------	----	----

年間の学習計画等

学期	単元	教材	学習内容
一学期	表現の実践（三）	考えを発表する	・自分の考えをスピーチ形式で発表したり他の人の発表を聞いたりすることにより、ものの見方や考え方を広げる態度を養う。
		話し合いをする	・適切な言葉遣いで自分の意見を述べ、他の人の意見を的確に聞き取る。
		ディベートをする	・ディベートの形式と手順を理解し、ディベートを行う。
	表現の実践（四）	課題作文を書く	・課題作文の書き方を理解し、明確な自己アピールとなる文章を書く。
		小論文を書く	・小論文の書き方を理解し、実際に小論文を書く。
		要約のしかた	・文章の要約の手順について学習し、自分の文章を論理的に構築する訓練をする。
二学期	表現の探究 —日本語の理解—	日本語の特徴	・日本語の、文法・語彙・音節・文字の特徴を理解する。
		方言と共通語	・方言のよさを理解し、方言と共通語を適切に使い分ける態度を養う。
		敬語の分類	・正しい敬語について理解し、適切な敬語を用いて話す。
		ニュアンスを変える助詞	・助詞の違いで意味が変化することについて、日本語の文法の特徴について学習し、助詞の違いにこめられたニュアンスの違いを理解する。
		日本語のレトリック	・日本語における比喻表現について、その種類や用例、効果を理解する。
		古語雑談—「やさし」の語史	・言葉の意味の変遷をたどることにより、現在使われている日本語の成り立ちや、日本人のものの考え方の源泉について考える。
三学期	表現の探究 —表現の研究—	時間の見方を変えるとき	・論理的な文章を読み、その構成や論証のしかたを、自分の表現に役立てる。 ・論理的な文章を読み、ものの見方や考え方を広げる。
		皐月	・文章中の表現技法とその効果を理解する。 ・登場人物個々の描写のしかたや、心情を表す工夫について理解し、自分の表現に役立てる。
		コップの中の論戦	・投書を擬した各文章の論点と、その表現の特徴とを理解し、そのように表現した筆者の意図を考える。

平成27年度 地理歴史科（日本史A）シラバス

単位数	3単位	学年・コース	第3学年 情報	区分	必修・選択
使用教科書・副教材 現代の日本史（山川出版社）					
学習目標	現在、日本においてはいろいろな分野で国際化が強くなっている。高校教育の目標である、「国際社会に生きる資質」を養うためには祖先がいかなる時代状況の中で、何を考え、どのようにして自分たちの社会や文化をつくりあげてきたのか、その歴史を深く学び、慎重に考察を加えていくことが重要である。近現代の日本史は、世界各国との結びつきが緊密であり、影響は今日の私たちの生活に直接かかわってきている。「国際社会の中の日本」という立場を常に念頭に置きながら、広い視野に立って近現代の日本の歩みを十分に理解し、生徒が21世紀を迎えてさらに歴史に新しい興味と関心を持てるようになることを期したい。				
月	学習事項	学習到達目標			
4	第1章 開国と維新	①1840年にはアヘン戦争なども行われるなど、19世紀以降にヨーロッパの帝国主義の動きがアジアまで至るようになったことを理解する。 ②アメリカの開国要求とそれをめぐって江戸幕府が揺れた様子を理解する。 ③江戸幕府という政権体が崩壊していく過程を理解する。 ④明治新政府のとった一連の政策について概要を理解する。 ⑤明治新政府内の対立から旧士族反乱がおこり、1877年の西南戦争で一区切りがついたことを理解する。			
5	第2章 近代国家の形成と発展	①旧士族反乱がおさまった後、明治新政府の政策に反感を抱く者たちがおこした自由民権運動について理解する。 ②自由民権運動をうけて大日本帝国憲法と帝国議会の開設される過程を理解する。 ③明治以降のアジア諸国と日本との関係について把握する。 ④幕末に日本が結んだ不平等条約が改正されるまでの過程について把握する。 ⑤日清戦争について、始まる原因・背景・経過・戦後処理 その後の影響までを理解する。 ⑥日清・日露戦争前後における日本国内の政権争いの構造について理解する。 ⑦日露戦争について、始まる原因・原因・経過・戦後処理 のその後の影響までを理解する。 ⑧日露戦争勝利により、日本が世界の先進国への仲間入りを果たしたことと、日本人たちにもたらした影響について考察する。			
6	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	①1880年代以降に日本に起こった産業革命（企業勃興）の状況を理解する。 ②資本主義の特色について理解して、深く考察する。 ③社会問題の根本的な定義を理解し、さらにその原因・経過・処理などについて追及する。 ④現在の私たちに多大な影響を与えている大衆生活・文化についての意義を知る。			
7	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	①第一次大戦前後の日本の様子や、世界各国の概況について知る。 ②大正デモクラシーの経過・雰囲気を知り、本格的な政党政治が始まるまでの過程を学ぶ。 ③ワシントン体制による国際協調・軍縮の展開について理解する。 ④本格的な政党政治が成立した時期の概況を理解する。 ⑤大正・昭和初期の一般市民の生活の様子や大衆文化などの諸問題・様子について理解する。			

9	第5章 第二次世界大戦と日本	①昭和恐慌とそれが与えた政治的な影響、そして軍国主義へと導かれるようになっていく背景・原因を理解する。 ②満州事変をきっかけとして日本は国際連盟を脱退し、国際的に孤立化していくが、その様子を理解する。 ③5・15事件で軍部が日本国内の政権を実質的に奪い取った事について理解する。 ④日中戦争・第二次大戦・太平洋戦争のおこった原因・経過・戦後処理・そして与えた影響について考察する。
10	第6章 占領下の日本	①太平洋戦後のGHQによる日本民主化政策について理解する。 ②冷戦の構造がはっきりしてくるにつれて、日本が「逆行コース」の流れに陥ってきたことを理解する。またその政策の一部として1951年サンフランシスコ平和条約があることを理解する。
11	第7章 日本の自立と経済成長	①55年体制について理解する。 ②1950～1970年代における日本の概況と高度経済成長の実情を理解する。
12	第8章 現代の世界と日本	①1970年代以降の日本の経済状態を理解する。 ②冷戦が終結したことによる影響を理解する。 ③1990～2010年における日本の概況を理解する。 ④国際社会の中にある日本の位置づけを再考察する。
1	問題演習	演習を通じて歴史的考え方を身につける。

評価の観点と趣旨及び評価方法

評価の観点と趣旨		評価方法
関心・意欲・態度	近現代史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に迫及するとともに、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	課題の提出状況 学習への参加状況
思考・判断・表現	近現代史の展開から課題を見出し、世界的視野に立って多面的多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	授業での机間巡視 課題 考査
資料活用の技能	近現代史の展開に関する諸資料から有用な情報を読み取り、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その過程や結果を適切に表現している。	授業での机間巡視 課題 考査
知識・理解	近現代史の展開についての基本的な事柄を世界の出来事と関連付けて理解し、その知識を体系的に身に付けている。	授業での発問 小テスト 考査

平成 27 年度 地理歴史科（地理 B）シラバス

単位数	3 単位	学年・コース	第 3 学年 情報・進学文系	区分	必修 ・選択
使用教科書・副教材		新詳地理 B （帝国書院） 新詳高等地図 （帝国書院）			
学習目標	現代社会において、各国の状況を正確に把握しその課題点をつかみ、自分なりに考察していく姿勢は今後の国際化社会を生きていく生徒達のまさに「生きる力」であるといえる。その力をはぐくむため地理では以下のことを重視して指導を行っていく。1 つ目は「現代世界の地理的事象を理解し、地理的見方や考え方ができるようにする」、2 つ目は「地誌的考察の視点を身につけ、地形図から情報を得ることができるようにする」、3 つ目は「地域の特色について理解し、その要因や今後の展望について自ら考察できる力を育む」である。				
月	学習事項	学習到達目標			
4 ～ 5	第Ⅱ部 世界の諸地域 3 章 人口、村落・都市	3 章 1. 人口分布と食料の偏在性の原因と解決に向けての取り組みについて考察する。 2. 日本における都市の形態・成立条件などを把握する。 3. 様々な要因によっておこる都市居住問題についての理解を深める。 4. 世界的な集落の形態・成立条件などについて基礎的な知識・概念を獲得する。 5. 世界的な都市の形態・成立条件などについて基礎的な知識・概念を獲得する。			
6 ～ 7	4 章 生活文化、民族・宗教	4 章 1. 世界各地の衣食住の現状についてイメージを持つ。 2. 衣食住と関わる社会環境である言語・宗教などについて基礎的知識を獲得し、理解を深める。 3. 日本における衣食住などの社会環境について把握する。 4. 人種・民族について理解し、民族を区分けする指標の 1 つである宗教について理解を深める。 5. 世界の民族・領土問題について、その原因を考察し、基礎的な知識を獲得する。 6. 日本の民族・領土問題について、どのような問題を抱えているのかを考察する。 7. 具体的事例を取り上げ、さまざまな民族・領土問題について考察する。 8. 民族の共生へ向けての課題について、多文化共生の視点から考察する。			

9 ～ 11	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1 章 現代世界の地域区分 2 章 現代世界の諸地域	1 章 地域区分図の見方についての基礎を理解する。 2 章 1. 東アジアの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 2. 東南アジアの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 3. インドの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 4. 西アジア・中央アジアの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 5. アフリカの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 6. ヨーロッパの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 7. ロシアの自然・人種・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 8. アメリカの自然・人種・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 9. オセアニアの自然・人種・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。
12	3 章 現代世界と日本	3 章 1. 日本の環境・エネルギー問題について、どのような取り組みをしてきたかを把握する。 2. 環境・エネルギー問題の解決への取り組みについて、どのような考え方が必要かを把握する。
1	問題演習	演習を通じて地理的考え方を身につける。

評価の観点と趣旨及び評価方法

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	現代世界の各国の状況に関心をもつとともに、地理的事象の考察に積極的に活用して地理学的論拠に基づいて判断しようとする。	課題の提出状況 学習への参加状況
思考・判断・表現	現代世界の状況と課題を多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	授業での机間巡視 課題 考查
資料活用 の 技能	地理に関する諸資料から有用な情報を読み取り、表現したり処理したりできる技能を身に付けている。	授業での机間巡視 課題 考查
知識・理解	現代世界の地理的事象や各国の状況について体系的に理解し、その知識を身に付けている。	授業での発問 小テスト 考查

平成 27 年度 シ ラ バ ス 3 年 情報コース

教科・領域【 数学 】 科目【 数学Ⅱ・数学活用 】

単位数	1 + 2 単位	学科・コース	普通科・情報コース	学年	第 3 学年	区分	必修・選択
-----	----------	--------	-----------	----	--------	----	-------

1 使用する主な教材等

☐	使用教科書，副教材等 新 数学Ⅱ（東京書籍） 数学活用（実教出版）
☐	授業等で配布するもの プリント

2 年間の学習計画等

学期 月	学 習 内 容	学習の達成目標	重要事項
1 学 期	4 <数学Ⅱ> 第 4 章 指数関数と対数関数 1 節 指数関数 1 指数の拡張 2 累乗根 3 指数関数とそのグラフ	・指数法則を用いた計算をすることができる。 分数を指数とする計算ができ，累乗根として表すことができる。 ・指数関数のグラフをかくことができる。	指数 累乗 指数法則 累乗根 底 指数関数
	5 2 節 対数関数 1 対数 2 対数の性質 3 対数関数とそのグラフ 4 常用対数	・簡単な対数の値を求めることができる。 対数関数のグラフをかくことができる。 ・常用対数の意味を理解できる。	対数 真数 対数関数 常用対数
	6 第 5 章 微分法と積分法 1 節 微分法 1 平均変化率 2 微分係数 3 導関数 4 導関数の計算 5 接線	・平均変化率を求められる。 ・微分係数を理解し，求められる。 ・導関数の定義を理解している。 ・導関数の計算ができる。 ・接線の方程式を求めることができる。	平均変化率 極限值 微分係数 導関数 微分する 接線 接点
	7 6 関数の増減 7 関数の極大値，極小値 8 関数の最大値，最小値	・関数の増減を調べられる。 ・導関数を利用して，関数の極値および最大値・最小値を求められる。	増減表 極大 極小 極値
2 学 期	9 2 節 積分法 1 不定積分 2 不定積分の計算 3 定積分 4 定積分と面積 5 定積分の計算	・不定積分の定義や性質を理解し，計算することができる。 ・定積分の定義や性質を理解し，計算することができる。	不定積分 積分する 積分定数 定積分 下端 上端
	10 <数学活用> 第 1 章 身の回りの数学 1 節 いろいろな場合の数 2 節 身の回りの図形 3 節 数学的な表現のくふう	・身の回りのいろいろなところで数学が関係していることを理解する。	※ 関連 場合の数，図形の性質「数学 A」
	11 第 2 章 社会生活と数学 1 節 経済と数学 2 節 測定と数学 3 節 コンピュータと人間の活動	・経済や測定など，社会生活を営むうえで数学が使われていることを理解する。	※ 関連 三角比「数学 I」 2 進法の四則演算「数学 A」
	12 3 章 数学の発展と人間の活動 1 節 数と人間 2 節 図形と人間	・数学と人間がどのように関わって発展してきたかを理解する。	
3 学 期	1 3 節 数学と文化	・生活の中で使われている数学のしくみについて理解する。	

3 評価の観点と趣旨及び評価方法

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	課題の提出状況 学習への参加状況
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	授業ノート 課題 考查
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	授業ノート 課題 考查
知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	授業での発問 小テスト 考查

4 授業を受ける際の注意事項等

- ノートを確実にとり、授業に積極的に参加すること。
- 授業での質問は理解を深めるために必要であるので、不明な点など質問し、授業時間内での解決に努めること。
- 課題は自らの理解度を確かめるために行うもので、教科書や参考書を利用して確実にこなすこと。

理科【生物基礎】

「新編生物基礎」	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	普通科 第3 学年 1 組 情報コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対しての興味・関心を高める。 3 観察、実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。
使用教科書・副教材等	東京書籍「生基302 新編生物基礎」 準拠問題集「ニューサポート新編生物基礎」 『新編生物基礎』指導資料 付属 指導用DVD-ROM（デジタル板書、動画）

2 学習計画及び評価方法等 ※学習内容括弧内の数字は時間数。

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備 考 1 学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等と関連等 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点 のポイント				
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 実 験 の 技 能	知 識 ・ 理 解	
	3編 生物の体内環境の維持 プロローグ	4		自分の体や健康に対する興味関心を喚起する教材を選ぶ。	第1学期中間考査	○				
	1章 体内環境の維持 (8) ① 内部環境の特徴		・中学校での事項である、循環系とそのはたらき・血液の成分とそのはたらき・肝臓と腎臓のはたらきについてのふりかえりを行い3編への導入とする。 ・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系がかかわっていることを理解する。 ・血液の組成とはたらきについて理解する。	血液凝固のしくみについてもコラムを利用して発展的な学習を行う。					○	
	<観察実験⑥>血液を観察しよう		・両生類の血液を観察し、赤血球がヒトのものと異なる点を確認する。			○		○		
	②体内環境を調節する器官		・肝臓のつくりとはたらきを学習することで、肝臓で様々な物質の合成・分解・貯蔵が行われて体液の成分が保たれることを理解する。 ・腎臓のつくりとはたらきを学習することで、腎臓が体液中の無機塩類などの濃度を一定保っていることを理解する。	コラムや図説を用いて、濃縮率や尿量の算出方法などの発展的な学習を行う。			○			○
	<観察実験⑦>ブタの腎臓を観察しよう		・ブタの腎臓を観察し、その構造を理解する。			○		○		
	2章 体内環境を保つしくみ (8) ①自律神経系による調節		・自律神経系の分布とはたらきを理解する。 ・交感神経と副交感神経が拮抗的にはたらいっていることを理解する。	身近な例として、活動時（緊張時）と安静時の体の状態を考えさせながら自律神経系のはたらきを理解させる。その際、コラムも参考にする。						○
	②ホルモンによる調節	5	・ホルモンとは何かということを、はたらきや性質を学習することによって理解する。 内分泌腺からのホルモンの分泌と標的細胞でのホルモンの受容について理解する。 ・ホルモン分泌量の調節が、視床下部からの指令やフィードバック調節によって行われていることを理解する。	神経についての発展的な学習はコラムや図説を用いて行う。						○
	<観察実験⑧>ホルモンによる魚の心拍数の変化を調べよう		・実際の生物においてホルモンがどのように作用するかを確認し、アドレナリンのはたらきを理解する。				○	○		
	③血糖値の調節		・血糖値が、自律神経のはたらきやホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解する。 ・身近な疾患の例としてインスリンの分泌不足による糖尿病があることを理解し、健康への関心を喚起する。	糖尿病の症状や予防法について文献やインターネットなどによって調べ、成人病についての関心を高める。		○				○

[illegible]

平成27年度 体育年間計画

鹿児島県立財部高等学校保健体育科

学 年	4		5			6				7		9					10					11					12		1					2					3				
	週数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35						
	単位																																										
3	1	体づくり運動 (8)				球技Ⅰ(8) (男:ソフトボール) (女:バレーボール)				体育 理 論 (2)	陸上Ⅰ(10) (リレー・投てき・跳躍)					球技Ⅱ(8) (男:バスケットボール) (女:バドミントン)					体育 理 論 (2)	陸上Ⅱ(8) (長距離走)					体育 理 論 (2)	球技Ⅲ(8) (男:サッカー) (女:バスケットボール)					武道・ダンス(14)										
	2																																										
学校行事等		全体オリエンテーション	体力テスト／登山			大隅地区大会	中間考査	県総体			文化祭	期末考査				体育祭				大隅地区新人大会	中間考査				県新人大会				長距離走大会	期末考査					卒業考査					卒業式・閉校式			

* 3年は2単位です。

シラバス

平成27年度版

教科【保健体育】 科目【体育】

学年	3年	学科	普通科	単位数	2単位	区分	必修
----	----	----	-----	-----	-----	----	----

1 学習内容及び到達目標

運動の合理的な実践を通して、生徒の心身の発達と体力の充実を図る。また、各種の運動技能を高め、健康・安全についての理解と協調性・責任感などの社会的態度の育成をする。

2 年間の学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考(体育的行事含む)
1	4	体づくり運動 (集団行動含む)	体力を高める運動や体ほぐしの運動を実践することで、全面的な体づくりを行い運動を計画的に実践する資質や能力を養う。また、集団としての行動を秩序正しく安全で効率的に行う。	新体力テスト ラジオ体操(第2) 登山
	5	球技Ⅰ	種目の特性及びルールを知り、チームの課題や自己の能力に応じて練習の内容や方法を工夫し、運動技能を高めることができるようにする。また、健康・安全に留意して練習などを行うことができる。	男子:ソフトボール 女子:バレーボール
	6			
	7~9	陸上競技 (リレー・投てき・跳躍)	仲間とお互いに助言などを行い、協力しながら目標記録をめざすことにより、走力などを高め、競走を楽しむことができる。	クラスマッチ
2	9 下旬~ 10	球技Ⅱ	種目の特性及びルールを知り、チームの課題や自己の能力に応じて練習の内容や方法を工夫し、運動技能を高めることができるようにする。また、健康・安全に留意して練習などを行うことができる。	体育祭 男子:バスケットボール 女子:バドミントン
	11	陸上競技 (長距離走)	自己の能力に適した目標を設定し、主体的に取り組むことができる。	長距離走大会
3	12 ~1	球技Ⅲ	種目の特性及びルールを知り、チームの課題や自己の能力に応じて練習の内容や方法を工夫し、運動技能を高めることができるようにする。また、健康・安全に留意して練習などを行うことができる。	男子:サッカー 女子:バスケットボール
	2~ 3	武道・ダンス	武道における伝統文化の一つである礼儀作法を守り、相手を尊重する態度を養い、様々な基本動作を身につけ、安全に実施することができる。 ダンスの特性を知り全身で表現する楽しさや喜びを味わうことができる。	武道は柔道 (男女選択可) ダンスは男女選択可

3 学期及び各単元毎の学習状況の評価方法

全体:授業への参加状況及び意欲・関心・態度
 体づくり運動:取り組み状況及び動作の理解
 球技:個人・チームの課題解決のための取り組みや個人スキル、ゲームへの取り組み
 陸上競技:自己の能力に応じた目標達成度、取り組み状況
 武道:基本動作の修得状況 学習課題への取り組み状況安全面への配慮
 ダンス:基本的な動作の習得と全身で表現できているか
 体育理論:各単元の始めにおいて、ルールや運動課題、歴史などを説明し、テストを行う。

4 年間の学習状況の評価

- 授業の準備や練習、後片付けなどを積極的に取り組めたか。(態度)
- 健康・安全に留意して運動に親しみ、運動の楽しさや喜びを味わいながら技能を高められたか。(技能)
- ルールやマナーを守り、協力・公正・責任など態度を身につけ練習やゲームに取り組んだか。(態度)

5 評価の観点と趣旨及び評価方法・視点

評価の観点と趣旨		評価方法・視点
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで運動をし、意欲的に学習に励もうとする。また、健康・安全に運動を行う態度を身につけている。	・意欲的に取り組んでいるか観察 ・安全面への配慮ができていないか観察
思考・判断	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の行い方を身につけている。	・練習内容の工夫や作戦などの組み立て ・運動課題を解決するための工夫 ・上記を記入した学習ノート
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の行い方を身につけている。	・スキルテスト及び観察 ・ゲーム中の集団技能を観察
知識・理解	運動やスポーツの意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を身につけている。	・ルールや試合の実施方法の理解 ・運動の行い方の理解

6 授業を受ける際の注意事項など

授業前	・雨天時などで活動場所が変更になりそうときは体育委員が確認に来ること ・授業の用具等の準備等は全員で協力して行う。 ・服装等を整える。(靴・靴下の色、シャツなどの乱れ、短パンのはき方など) ・見学の際は事前に連絡し、着替えができる場合は体育服で見学を行う。 ・遅刻しない。チャイムが鳴るのと同時に整列して待つ。ある一定の時間が過ぎて遅刻した場合、欠課となることもある。 ・欠席しない。単位が出せない。
授業中	・説明を聴く際は体育座りとし、静かに聞く。質問・確認等は説明後にする。 ・指示されたことを機械的に実行するのではなく、考えて体を動かすなど主体的に取り組むこと。 ・補強や練習の際に悪ふざけなどせず、安全に注意して積極的に運動を行う。
授業後	・道具は個数を確認し、元の場所に置く。 ・用具等の後片付けは全員で協力して行う。 ・速やかに着替えて次の授業に備える

平成27年度 財部高等学校 シラバス

教科	英語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3単位	区分	必修	対象	3年情報コース
----	----	----	--------------	-----	-----	----	----	----	---------

1 学習到達目標

- ・コミュニケーション英語Ⅰを基礎にして幅広い日常的な話題(自分自身、家族、友人や学校、世界の出来事など)について相手の発信した英語を理解し、また自分の考えなどを積極的に発信する態度・英語の力を養う。
- ・場面や目的に応じて、主体的に英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりして自発的・積極的にコミュニケーション活動に取り組む態度を育てる。

2 使用する主な教材等

VISTA English Communication Ⅱ (三省堂) エースクラウン英和辞典(三省堂)
英作基本文例600(啓隆社)

3 1学期の学習計画等

月	単元・教材名	学習内容(学習のねらい)	備考	考查範囲	自己評価			
					1	2	3	4
4 ～ 5	Lesson 6 Unique Countries	世界のユニークな国々を取り上げ、いったい何がユニークなのかを学習する。また、その文化・地理・歴史についても学ぶ。 文法: howなど+to do ～ 「どのように～したいか」 文法: It seems that ～ 「～のようだ」	課題考查	一学期中間 英検 一学期期末 英検 一学期期末 英検				
5 ～ 6	Lesson 7 The Galapagos Islands	世界自然遺産の1つ、赤道直下に浮かぶガラパゴス諸島が直面している問題やその原因、植物の危機、ガラパゴス諸島を救うことは何を救うことなのかを学習する。 文法: have(has)+been+doing～ 「ずっと～している」 文法: find it important to do～ 「～することが大切だとわかる」	英検					
6 ～ 7	Lesson 8 Shodo, Old and New	長い伝統を持つ書道に、高校生が試みた新しいものは何なのか。さらに書道の歴史・すぐれた作品を作るのに大切なこと・今後について学習する。 文法: not～allなど 「すべて～というわけではない」 文法: can be done 「～されることができる」						
課題・提出物等		予習復習を毎授業の習慣としてください。これが日々の課題です。毎授業単語テストや基礎テストを実施します。各レッスンが終了するごとに内容理解と文法事項の確認のために復習プリントを実施します。また、休日課題は英文法力を定着させる内容のものを精選しています。	自己評価の該当する欄に○印をつける。 1 大変良くできた(80～100%) 2 できた(60～79%) 3 あまりできなかった(30～59%) 4 まったくできなかった(0～29%)					
1学期の学習状況 評価方法		定期考查、単語テスト、単元テスト、課題の提出状況、出席状況、授業への取り組み等を総合的に判断して評価します。						

4 2学期の学習計画等

月	学習内容	学習のねらい	備考	考查範囲	自己評価			
					1	2	3	4
9 ～ 10	Lesson 9 Water World	水族館の歴史とその発展について学習する。1853年イギリスにできた世界初の水族館の特徴、1882年日本に初めてできた水族館の特徴を知る。また、私たちにとって水族館がどんなところであるかも考える。 文法: ～, which … 「～ですが、それは・・・」 文法: have been done 「これまでずっと～されている」	課題考查	二学期中間 英検 二学期期末 考查				

10 ～ 11	Lesson 10 A Long Friendship	アジアとヨーロッパとにまたがるトルコと日本の関係について知る。トルコが日本に好感を抱いている理由、イラン・イラク戦争中にトルコが日本のためにしてくれたことも学習する。 文法: had+過去分詞 「それまでにもう～していた」 文法: It is ～ that … 「…するのは～だ」	英検					
11 ～ 12	ENJOY READING Charlie and the Chocolate Factory	<イギリスの作家ロアルド・ダールの書いた物語の読解> 物語の主人公チャーリーの住む町にはチョコレート工場があるのだが、その工場で働く人の姿を誰も見たことがなかった。また工場の持ち主のウィリーもこの10年間姿を見せることもなかった。しかし、ある日その工場に5人の子どもが家族同伴で招待され、ウィリーが案内をすることが新聞に発表される。招待された子どもたちにとどのようなことが待ち受けているだろうか。		二学期期末考査				
課題・提出物等		1学期に同じ	自己評価の該当する欄に○印をつける。 1学期に同じ					
2学期の学習状況 評価方法		1学期に同じ						

5 3学期の学習計画等

月	学習内容	学習のねらい	備考	考査範囲	自己評価			
					1	2	3	4
1	易しい長文問題演習	これまで学んできた文法事項を駆使しながら、まとまりのある易しい長文を読み、内容理解を行う。	課題考査 英検	卒業考査				
課題・提出物等		1学期に同じ	自己評価の該当する欄に○印をつける。 1学期に同じ					
3学期の学習状況 評価方法		1学期の成績，2学期の成績および3学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。						

6 評価の観点の趣旨

A	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。
B	表現の能力	幅広い話題について、情報や考えなど伝えたいことを整理して英語で話したり、書いたりして表現することができるか。
C	理解の能力	幅広い話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを整理して理解することができるか。
D	言語や文化についての知識・理解	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。

7 評価のポイント

1 リズムやイントネーションに気をつけながら音読することができるか。	B C D
2 辞書に慣れ親しみ、疑問を解決するために積極的に活用しているか。	A C
3 単語や熟語・英文法を理解し、身につけているか。	B C D
4 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解することができるか。	A C
5 英語を用いた発問に対して、適切に応答することができるか。	A B C
6 異なる文化や考えを理解し、尊重しようと努めることができるか。	A C D

8 学習上の留意点

①予習について

英語の授業は、予習を前提に進めていきます。授業の前に必ず本文に目を通し、未知の単語の意味を調べておきましょう。また、本文をノートに写し、重要表現やイディオムをチェックし、日本語訳を考えておいてください。

②授業について

予習をしっかりとしていれば、授業は復習の場となります。授業では自分の日本語訳を確認し、分からなかった箇所や間違っていた箇所はしっかりと添削しておきましょう。

③復習について

習ったことはその日のうちに復習します。内容を確実に理解できたら、スラスラと読めるようになるまで声に出して音読するように心がけましょう。単語、イディオムも覚えます。十分に復習がなされていれば、英語の学力は定着し、考査前にあわてることはありません。予習・復習で毎日一時間は英語の勉強時間を確保してください。

④課題について

平日、または休日に出された課題は必ず提出期限を守って提出すること。

⑤辞書を読む

単語の意味を調べるためだけに辞書を使うのではなく、例文や語法の説明を読むことが大切です。

⑥授業以外の英語学習

テレビや雑誌、インターネット上など身の回りに英語学習の教材はあふれています。またALTとの会話は生きた英語や異文化に触れる絶好の学習チャンスです。積極的に話しかけてください。

9 終わりに

高校一年生では「コミュニケーション英語Ⅰ」を学びましたが、「外国語の一つである英語」は“International Englishes”, “Global English”とも最近は呼ばれています。ボーダーレス化する国際情報化社会において、多くの他民族との意思疎通を図る「共通言語」, 「共通補助語」としての英語の役割は、好き嫌いを乗り越えて益々重要視されてきています。
高校一・二年では「コミュニケーション英語Ⅱ」の教科を通して至世界の人類に共通する課題・諸問題(global issues)を

真摯に学び、差別・偏見のない、民主的人格で平和を愛好する、いわば「地球市民」とも言うべき「真の国際人・異文化理解者」になって欲しいと心から願っています。

最近では、大学入試または就職試験の必修科目として、英語を課しているところは少なくないようです。英語力の向上は、高校卒業後の進路決定に大きな影響を与えます。継続的に学習に取り組みましょう。

シラバス

教科・領域【 商業 】

科目【 課題研究 】

単位数	4 単位	学科・コース	普通・情報	学年	第 3 学年	区分	必須・選択
-----	------	--------	-------	----	--------	----	-------

1 学習内容と学習達成目標

商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てます。

2 使用する主な教材等

(1) 使用する教科書・副教材等

全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集（実教出版）

全商珠算・電卓実務検定模擬問題集（実教出版）

(2) 授業で配布するもの

プリント

3 年間の学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 到 達 目 標	考查範囲等
一 学 期	生徒自らが選択した分野（電卓・ビジネス文書）に別れ、検定試験対策を行う。	4 5 6 7	生徒自らが設定した検定試験に合格する力を養成します。	全商珠算・電卓実務検定 全商ビジネス文書実務検定 考查なし
《課題・提出物等》 プリント				
《1 学期の学習状況の評価方法》 提出物・授業態度・検定試験受験結果を判断し評価をする。				
二 学 期	生徒自らが選択した分野（電卓・ビジネス文書）に別れ、検定試験対策を行う。	9 10 11 12	生徒自らが設定した検定試験に合格する力を養成します。	全商珠算・電卓実務検定 全商ビジネス文書実務検定 考查なし
《課題・提出物等》 プリント				

《2学期の学習状況の評価方法》 提出物・授業態度・検定試験受験結果を判断し評価をする。				
三 学 期	生徒自らが選択した分野（電卓・ビジネス文書）に別れ、検定試験対策を行う。	1	生徒自らが設定した検定試験に合格する力を養成します。	考查なし
《課題・提出物等》 プリント				
《3学期の学習状況の評価方法》 提出物・授業態度・検定試験受験結果を判断し評価をする。				
《年間の学習状況の評価方法》 提出物・授業態度・検定試験受験結果を総合的に評価する。				

4 評価の観点と趣旨及び評価方法

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	積極的に授業に取り組んだか。	授業態度, 提出状況から評価します。
思考・判断・表現	自らが設定した課題に向けて, 基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し, 処理することができたか。	提出課題
資料活用 of 技能	自らが設定した課題に向けて, 基礎的な技術を身に付けているか。	提出課題
知識・理解	課題に関する基礎的・基本的な知識と技術・知識を身に付けているか。	提出課題

5 授業を受ける際の注意事項

自分の興味や関心に応じて自由に講座を選択し, 自主的にその分野を研究・学習します。 授業担当者ごとに教室にわかれ, 実施します。

シラバス

教科・領域【 商業 】 科目【 ビジネス情報 】

単位数	4	単位	学科・コース	普通・情報	学 年	第3学年	区分	必修・選択
-----	---	----	--------	-------	-----	------	----	-------

1 学習内容と学習到達目標

(1) ビジネスと情報	(4) データベースソフトウェアの活用
(2) 情報通信ネットワークの活用	(5) ソフトウェアを活用したシステム開発
(3) 表計算ソフトウェアの活用	

2 使用する主な教材等

(1) 使用教科書, 副教材等 ビジネス情報 (実教出版) 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1・2・3級 (実教出版) 全商情報処理検定模擬試験問題集2級 (実教出版)
(2) 授業で配布するもの 練習プリント

3 年間の学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学習のねらい	考查 範囲
一 学 期	第1章ビジネスと情報	4	・現代のビジネスの実例を通して、ビジネスにおけるICT活用の基本的な知識を習得させ、この科目を学ぶ目的やねらいを理解させる。	ビ ジ ネ ス 文 書 実 務 検 定 期 末 考 査
	第2章情報通信ネットワークの活用	5 6 7	・ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理などの技術を習得させる。 ・ビジネス文書実務検定に合格する力を身につける。 ・個人の習熟度に応じて、ビジネス文書実務検定を受験。	
	《課題・提出物等》 (1) 問題集入力。 (2) 筆記問題プリント。			
	《1学期の学習状況の評価方法》 (1) 定期考查の成績、提出物の内容、出席状況、学習活動参加の態度、検定試験成績結果などで評価します。 (2) 評価は原則として、定期考查の成績70%、出席状況10%、検定試験受験結果20%の配分で行います。			
二 学 期	第3章表計算ソフトウェアの活用	9	・情報処理検定(3級)を受験。	情 報 処 理 検 定 ビ ジ ネ ス 文 書 実 務 検 定 期 末 考 査
		10	・表計算ソフトウェアを活用して、さまざまなビジネスの情報を管理、分析し、業務に役立つ合理化や自動化についての知識、技術を身につけさせる。	
	第4章データベースソフトウェアの活用	11	・身近なテーマをもとに、リレーショナル型データベースを活用して、データベースの検索機能についての知識や技術、データベースを操作するためのSQL言語を習得させる。 ・ビジネス文書実務検定に合格する力を身につける。 ・個人の習熟度に応じて、ビジネス文書実務検定を受験。	
		12		

三 学 期	《課題・提出物等》 (1) 問題集入力。 (2) 筆記問題プリント。			
	《二学期の学習状況の評価方法》 (1) 定期考查の成績，提出物の内容，出席状況，学習活動参加の態度，検定試験成績結果などで評価します。 (2) 評価は原則として，定期考查の成績 70%，出席状況 10%，検定試験受験結果 20%の配分で行います。			
	第 5 章ソフトウェアを活用したシステム開発	1	・指導目標に応じて情報処理検定を受験。 ・ビジネスに関連した情報システムの開発について，基礎的な知識と技術を習得させる。	情報処理 検定 卒業考查
三 学 期	《課題・提出物等》 (1) 問題集入力。 (2) 筆記問題プリント。			
	《三学期の学習状況の評価方法》 (1) 定期考查の成績，提出物の内容，出席状況，学習活動参加の態度，検定試験成績結果などで評価します。 (2) 評価は原則として，定期考查の成績 70%，出席状況 10%，検定試験受験結果 20%の配分で行います。			
《年間の学習状況の評価方法》 以下の項目を総合的に評価する。 (1) 授業態度。 (2) 定期考查および小テスト (3) 検定試験。 (4) 提出物。				

4 評価の観点と趣旨及び評価方法

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	・ビジネスの諸活動において，情報を主体的，積極的に活用し，将来，職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。	授業態度，提出状況などから評価します。
思考・判断・表現	・適切な手段を用いて情報を収集・処理し，要求に応じた適切なシステム開発の要件を整理するなどの思考・判断力・表現力を身につけている。	課題への取組などから評価します。
技能	・ビジネスにおける情報活用に必要な，情報の分析手法，システムの開発，ネットワークの構築などの技能を身につけている。	課題への取組などから評価します。
知識・理解	・ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに，ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。	定期考查や検定試験などで評価します。

5 授業を受ける際の注意事項等

1. 始業チャイムまでに入室し，準備を済ませてください。 2. 部屋に入る時は上履き下履きの区別をしっかりとつけてください。 3. 授業時はテキスト，筆記用具を忘れずに持参してください。 4. パソコンは大切に扱ってください。
--